



予選レポート

2009/6/27 Rd-4 富士スピードウェイ

梅雨の合間というより真夏の暑さといった天候で迎えた第4戦富士スピードウェイ。チームは、開幕戦富士での好調をベースに、新たな試みを施したマシンを準備し、2009年シーズン折返しとなる富士に臨む。

予選前のフリー走行では、新セットアップの方向性を見出す確認プログラムに集中。

迎えたノックアウト第1予選、ライアン選手、伊沢選手の両ドライバーは、中古タイヤで感触を確かめた上でニュータイヤを装着、残り5分のタイミングでアタックに向かった。ライアン選手は高速コーナーでのバランスに苦しみながらも8位で第1予選を通過。伊沢選手は、アタック時にバイブレーションが発生し不完全燃焼のまま12位で第1予選を終えることとなった。

続く第2予選、ライアン選手は小変更を施しタイミングを見計らってアタックに入る。バランスはやや改善したものの、0.1秒及ばず9位で第2予選を終えた。

40:リチャードライアン選手 予選9位(第1予選8位 第2予選9位)

今回我々は新コンセプトのセットアップを準備してきました。1時間のフリー走行では十分に煮詰めることはできませんでしたが、大きな収穫がありました。予選でもその方向を維持してアタックを行い、タイヤのグリップ感もよいのですが、バランスがうまく維持できずアグレッシブな走りができませんでした。

開幕戦では不運に見舞われリタイヤとなってしまいましたが、今回はチーム戦略としぶとい走りでも表彰台を目指します。

41:伊沢拓也 選手 予選12位(第1予選12位)

フリー走行での感触から、セットアップにやや迷いが出てしまったかもしれません。私の場合、ライアン選手と逆でグリップ感が希薄な状況で、しかも中古タイヤでは大きな問題はなかったのですが、新タイヤを装着しアタックする時点で激しい震動が出てしまい、思うようにアタックすることができませんでした。不完全燃焼な予選となってしまいましたが、原因を解明し明日の長いレースに集中して臨みます。